

「孤独・孤立による支援課題を抱える人の支援ハンドブック」本文・導入（案）

1. はじめに

地域にはさまざまな事情により孤独・孤立の状況のもと生活上の課題や困難を抱える人が暮らしており、今後、同様の課題を抱える人がますます増えていくことが想定されます。身寄りがいない、いても支援が望めない、本人が他者の支援を望まない等の事情で、本人の医療や福祉サービス、金銭管理、意思決定等が不十分である、もしくは将来的にそうなることが予想される人に対して、支援者（機関）が基本的な対応について共通認識を持ち、本人への支援の充実を図ることが今後さらに重要となります。

芦屋市では、令和3年度に「病院における身寄りのない患者の支援ニーズに関するヒアリング調査」を実施し、身寄りがいない（いても支援が望めない）人の支援における課題を具体的に把握したうえで、支援を円滑に進めるための方策の検討を進めてきました。

そして今回、孤独・孤立による支援課題を抱える人のQOLの向上および権利を擁護することを目的として、本ハンドブックを作成しました。本ハンドブックを通して、一人でも多くの人に「その人がその人らしく、地域でみんなと暮らす」支援が展開されることを期待します。

2. 支援における基本的な考え方

支援を進めるにあたって、支援者が共通して認識・理解しておきたい基本的な考え方について記します。ここで挙げる内容以外にも、支援における考え方や進め方については、「支援の輪」のなかで話し合い、共有しながら、権利擁護支援の実践が展開されることを望みます。

権利擁護

ここでの「権利」とは、「その人がその人らしく、地域でみんなと暮らすこと」です。「擁護」とは「（権利の侵害から）守る」といった意味もありますが、さらに加えて「権利を行使する」「権利を創出する」ものとして捉えることが重要です。何らかの事情により、「自分の考えや希望をうまく伝えることができない」「改善・解決の手段がわからない」「自身の状況を理解できない」など、自分の権利を自分で守る（行使・創出する）こ

とが困難な人に対して、「本人の意思を確認し実現を図る」「本人の最善の利益を追求する」「本人の社会参加を推進し孤立しない環境をつくる」ことが、本人の権利擁護を支援するうえでの基本姿勢となります。

自己決定の尊重（意思決定支援）

障がい者の世界で有名なスローガンに、“Nothing about us without us”（私たち抜きに私たちのことを決めるな）があります。人はどんなに重い疾病や障がいがあっても、自分の意思を有していることを大前提とし、支援者はその人の意思を引き出し、その実現に向けて支援することが求められます。意思決定支援では、その人の性格や趣味嗜好、生活歴などを踏まえたうえで、話し合いや説明による本人と支援者の間の相互確認が必要であり、そのプロセスがとても重要となります。

チーム支援（支援の輪）

「支援の輪」というのは、本人を中心に置いて、支援者が包み込むように見守りながら、それぞれの支援者が本人の意思をもとに支援を行い、支援者も相互に助け合いながら支援を行う取り組みです。支援者が互いにつながりながら役割分担し、多くの社会的な支援を必要とする人びとを支えていくことが必要不可欠です。